



# まつやま中学生 海外派遣レポート



## 姉妹・友好都市訪問 & 異文化体験

### アメリカ班



アメリカ班は16名が7月26日から8月5日の11日間、サクラメントとロサンゼルスなどを訪問しました。



### ドイツ班



ドイツ班は16名が7月21日から7月31日の11日間、ライプルクとスイスのジュネーブなどを訪問しました。



### 韓国班



韓国班は10名が7月22日から7月28日の7日間、平澤(ピョンテク)とソウルなどを訪問しました。平澤では秋田県、青森市の子ども達とともに「青少年国際交流キャンプ」に参加しました。また、8月5日から8月9日までの5日間、平澤の中学生が松山を訪問し、ホームステイを通じて交流しました。



### 派遣事業概要

(公財)松山国際交流協会では、毎年夏休み中に「まつやま中学生海外派遣」を実施しています。

この派遣は、松山市の姉妹・友好都市での交流や体験学習、ホームステイなど、文化や言葉の違う人達との交流を通して、いろいろな価値観があることを学び、広い視野を持って物事を見ることが出来る国際性豊かな人材の育成を目的としています。

昨年度に「中学生チャレンジプロジェクト」(※1)へ登録し、1年を通じて国際交流活動に参加した中学生を対象に派遣生の募集を行いました。その中から選考された42名が、4回の事前研修の後、アメリカ班、ドイツ班、韓国班に分かれ派遣されました。この派遣を通して学んだこと、心に残ったことなどをレポートにまとめました。

※1「中学生チャレンジプロジェクト」については10ページをご覧ください。

### 事前研修

派遣先の文化やライフスタイルを理解するとともに、自分たちの国や街のことを再確認し、ホームステイ先でもきちんと紹介できるよう、出発までの間、事前研修を行いました。



### 報告会



帰国後、それぞれの班が現地で学んだ知識や体験等を発表する「報告会」を行いました。

### ☆派遣事業全体スケジュール☆

|          |                  |                       |         |
|----------|------------------|-----------------------|---------|
| 6月19日(日) | 事前研修会            | 7月28日(木)              | 韓国班帰国   |
| 6月26日(日) | 事前研修会            | 7月31日(日)              | ドイツ班帰国  |
| 7月 3日(日) | 事前研修会            | 8月 5日(金)              | アメリカ班帰国 |
| 7月10日(日) | 結団式・壮行会<br>事前研修会 | 8月 5日(金)~<br>8月 9日(火) | 韓国班受入   |
| 7月21日(木) | ドイツ班出発           | 8月上旬~中旬               | 事後研修    |
| 7月22日(金) | 韓国班出発            | 8月20日(土)              | 報告会     |
| 7月26日(火) | アメリカ班出発          |                       |         |

# アメリカ班



CITY OF SACRAMENTO  
サクラメント市



アメリカのサクラメント市の道路

## アメリカから学ぶもの

松山市立道後中学校 天野 輝葵

私はアメリカ行き、日本よりも緑が多いと感じました。道路に植えてある木も、日本は土に植えているのに対しアメリカは芝生に植えていたり、高速道路には日本は木などの植物が生えていないのに対しアメリカは道の端に木が植わっていました。サンフランシスコのガイドさんが「アメリカは緑の環境の多いほうが治安が良い。」と教えてくれました。

私の滞在したサクラメント市は、緑がとて多く、歩道や車道が広く、とても移動がしやすかったです。このことからサクラメント市はとても治安の良いことがわかりました。道にはほとんどゴミ捨てのゴミがなかったです。この研修で私はアメリカ人から見た日本の印象について学びました。多くのアメリカ人が日本はきれいな国という答えをあげました。私は実際アメリカへ行ってみて、日本のほうがゴミ捨てなどで汚いと思いました。

私は、日本は海外から学ぶものがたくさん

## <アメリカ班日程>

|         |                     |   |
|---------|---------------------|---|
| 第1日     | 7月26日(火)            | 松山発<br>サンフランシスコ着後、<br>サクラメントへ移動                             |
| 第2日     | 7月27日(水)            | サクラメント市内見学<br>ウェルカムパーティー                                    |
| 第3日     | 7月28日(木)            | 金発掘体験   |
| 第4日     | 7月29日(金)            | ジェリーベリーファクトリー   |
| 第5日~第6日 | 7月30日(土)<br>~31日(日) | ホームステイ  |
| 第7日     | 8月 1日(月)            | ロサンゼルス市内見学<br>カリフォルニアサイエンス<br>センター                          |
| 第8日     | 8月 2日(火)            | サンディエゴミッドウェイ<br>航空母艦博物館<br>カリフォルニア州立大学・サンマルコス校<br>メジャーリーグ観戦 |
| 第9日     | 8月 3日(水)            | 全米日系人博物館<br>ワナーブラザーズ・バックヤードツアー<br>グリフィス天文台                  |
| 第10日    | 8月 4日(木)            | ロサンゼルス発   |
| 第11日    | 8月 5日(金)            | 松山着   |

あるのではと感じました。一人一人の意識を高く持ち、海外から来てくださった外国人の皆さんを悲しまないようにしたいです。皆さんもぜひアメリカのサクラメント市を訪れてみてください。実際行ってみると思っているよりもたくさんの学びがあると思います。

## アメリカで感じたこと

松山市立久米中学校 池内 咲奈



アメリカのおもしろ信号

私がこの派遣で一番感じたことは日本との違いです。アメリカと日本は様々なところで違っていました。まず信号機です。青色の間がすく短かったです。私が行ったところでは、信号機が点灯する時間は10秒ほどでした。二つ目は車道のはしに駐車専用のスペースがあることです。三つ目は気候がカラッとしていることです。日本と比べて湿度が低いので汗もあまりかきません。四つ目は大きいです。食べ物だけでなく日本の違いを見つけました。

もう一つ私が感じたことは英語で話すことの難しさです。最終日にワナーブラザーズに行きました。その時は通訳がなく、頑張って聞いていたのですが、ネイティブの英語は速すぎて全く理解できませんでした。アメリカのハイスクール生とミッドウェイへ行った時も聞き取ることができず、また自分が伝えたいことが伝わらずとても悔しかったです。しかし悔しさがある分、伝わったときはすごく嬉しかったです。ホストファミリーとはずっと英語で話して、伝えたいことも伝えることができて本当に嬉しかったです。アメリカへ行つて言葉の壁を感じることが度々ありました。これからはもっとと勉強して次にアメリカへ行った時はもっと話せるようになりたいです。また英語以外の言語にも挑戦していきたいです。

## 初めてのホームステイ

松山市立道後中学校 伊藤 杏珠

私は、今回初めてホームステイをしました。事前にメールのやり取りをしていただけで実際に話したことはなかったので、凄く緊張していました。なぜなら、私はホストファミリーと仲良くなると決めていたのですが、それまでのプログラムで英語が速すぎて簡単な単語しか聞き取れなかったからです。「出来る!」と思えるようになったのはホストファミリーと対面する10分前でした。待ち合わせ場所には、私より2歳年上のマリアと2歳年下のCodyとママが迎えに来てくれました。質問の中で最初に事件がおこりました。質問したことを忘れてしまったのです。「沈黙が続いてしまう」と焦っていたらマリアの方が話しかけてくれました。マリアは、聞きやすい速さで話してくれました。私も理解することができました。それから安心して自分からも話せるようになりました。しかし次の日、また事件がおこりました。その

日は午前中に動物園に行きました。入り口でパンフレットをもらい中に入るとマリアに何が聞かれました。パンフレットは当然英語です。学校などで習っている単語しかわからず、見たいものが英語でなんて言うのだろうと困ってしまいました。すると、困っているのが伝わったのかマリアが「全部見よう」と言ってくれました。半分ぐらいが単語をつなげたものでしたが、ジュエリーを使うことで会話が終わることなく楽しめました。次は、午後ショッピングモールで買い物をしていくことになりました。ショップに入ると店員さんに話しかけられました。しかし、何を言っているかまったく分かりませんでした。マリアに聞くと、私にでもわかる単語でゆくりと話してくれました。お得意に買物が出来ました。ピンチがあったけどマリアとママたちが助けてくれてとても心強かったです。



お世話になったホストファミリーと一緒に

## スパイダーマンはスパイダモン!

松山市立南第二中学校 宇都宮 有

私は昔から行きたかったアメリカに行くことができ、派遣でお世話になったみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

初めてアメリカに行つて私の想像していたアメリカと少し違うなと思いました。私はアメリカのドラマや映画をよく観ますが、やはり現地に行かないと分からないというところを改めて感じました。それは、テレビの中では華やかで治安がいいイメージですが、実際にはホームレスの方々があちらこちらにいるなど格差のようなものがアメリカにもあるのだと思います。またガイドさんいわく、治安が悪い地域には様々な特徴があるように



In Hollywood

例えば、緑が多いか、ゴミが多いか、少ないかなど、色々な目線から見る必要があるのだと思います。また、私がアメリカに行くまで、驚いたのはスパイダーマンです。ハリウッドに行くバスの中でガイドさんから、「着ぐるみなどを着たスパイダーマンやミニオンやピカチュウ、マイケルジャクソンのそっくりさんなどがハリウッドにいて、その方々と写真を撮るとお金を請求される。またほったくられる可能性がある。」と聞いた後、バスから降りてハードロックカフェに向かう途中スパイダーマンが勢いよく顔を近づけてきたのです。迫力もあり、話を聞いた後だったので驚きました。ガイドさんが「過去には高額請求された人もいます。」と言われていました。気をつけようと思いました。

長時間のフライトも初めてだったし、ほぼ全てが初めてでした。アメリカでの経験、体験したことを生かして様々なことに勇気を持ってチャレンジしていこうと思います。

## I LOVE AMERICA

愛媛大学教育学部附属中学校 太田 蕉庫



温かい第二の家庭

サンフランシスコ国際空港に着くと英語の世界でした。入国審査の時も本場の英語が聞き分けられ、正直ほぼ聞き取れませんでした。

た。これがアメリカでの最初の出来事でした。気候など心配な面もたくさんあったのですが、むしろ、アメリカの方が過ごしやすかったです。

私はこの11日間で自分の意識を見直すことが出来ました。日本では大丈夫なことでもアメリカでは重大なミスにつながるということなど、今までの「あたりまえ」は日本では通用しないこともあります。自分の意識を変え、学校生活などにつなげていきたいと思っています。このように、学ぶことの多い研修でしたが、ショッピングに行ったり、メジャーリーグの試合を観戦したり、ホームステイをしたり、楽しいこともありました。また、自分の知識を増やすこともできたと思います。

ホームステイでは、マシューさん家族にお世話になりました。犬のルーシーとはすぐに仲良くなりました。またセグウェイを乗りこなせるようになり、初日にサンフランシスコに連れて行ってもらい、アップルや中心街に集まる百貨店などに行きました。人がたくさんいて東京みたいでした。翌日は会話を目標に頑張りました。マシューさんは多少、日本語が話せるものの、ほぼすべての会話が英語でした。ゆくりゆくりと自分も意味を理解し、英語で返すことが出来るようになり、ホームステイ最終日にはスムーズに会話が出来たと思います。別れるのはとても嫌でしたが「ありがとう」という気持ちはしっかりと伝えることができました。

すべてのプログラムが自分の将来に役立つものであり楽しいものでした。いつかまたアメリカへ行こうと思っています。

松山市立余土中学校 大野 友貴

## これが、アメリカかあ



サクラメントの風景

この派遣事業は、僕に大切なことを教えてくれました。僕は海外に行つたことがなかった

ので、行けると決まったときは、とても嬉しかった。特にアメリカは自由の国と呼ばれる国なので、とても興奮していました。

しかし、「いざアメリカに行く」と、英語で話そうとしても言葉が出てこなくて、「もう話すのは面倒くさいな」という気持ちで薄らぐきました。次第に買物の時なども話さなくなっていました。私がその気持ちを捨ててくる事が出来たのは3日目くらいです。

理由はたくさんありますが、一つは一緒に派遣で行った仲間達がどう話せばいいか教えてくれ、上手くしゃべれるようになったこと。もう一つはサクラメントでの金発掘ツアーの時、自分で金を見つけてとても興奮し、勝手に英語が口から出てきたことです。それから後はとても楽しくアメリカ人と接することが出来ました。後から思うとその頃には、最初に目標に掲げていた「Don't be shy」や「気配り 目配り 心配り」を達成できていたと思います。

最後に今まで協力してくださったガイドさん、添乗員さん、先生、協会の方々への感謝を忘れずに、この体験を日本でも生活に役立て、また、沢山の生にアメリカを伝えたいです。

## 異国で1日が学べる11日間

済美平成中等教育学校 緒方 怜奈



気持ちが伝わったお店

私はこの事業で初めて海外に行けて本当によかったと思います。なぜなら派遣は、観光目的ではなく、現地の人と触れ合い体験することを目的としていたからです。普通では体験できない様々なことをさせていただきました。

多くの体験の中で、「一番大切だと思ったことは「気持ち」です。例えば、買い物をするときは、「私は、店員さんが話していることを聞き取る自信がなかったの、わからないな」に一生懸命、前のめりになって、コミュニケーションを取ろうとしました。すると、どのお店でも、店員さんは優しく接してくださいました。ホームステイ中、買い物をした時に私は「アメリカの方はすごく優しいんですね。」

買い物をしたときに、現地のお客さんのときより、笑顔で接してくださったような気がします。とホストファミリーに言いました。すると、「それはあなたが一生懸命に、相手の言っていることを聞き取ろうとしていたのが伝わっているからだと思うよ。」と言ってくれました。

「たとえ言葉が通じなくても心で会話ができる」。コミュニケーションをとる中で、一番重要なことに、身をもって気づかされました。この派遣は、異文化を学び、成長するだけでなく、人としても成長できるものでした。一生に一度の大きな体験をさせていただき、本当に感謝しています。

## Japanese-American

愛光中学校 岡山 さくら

私がアメリカで体験したことで特に心に残ったことは、日系人博物館を訪れ、日系人の歴史を学んだことです。日本で働く場所が無く、希望を持ってアメリカにやってきた日本人移民たちが過酷な条件下でも一生懸命働いたことがアメリカ人を脅かすとして阻害されたり、戦争が始まったせいで日本人は危険だと見なされて強制収容されたりしたこと。心に痛みました。また、戦争中に日系二世は自分たちを守るためにアメリカ兵として戦ったことで世との間に大きな歪みが生じてしまったことも、日系人の悲劇の一つだと思いました。いつ終わるか分からない戦争と強制収容の全く希望のない状況の中で困難や苦痛に忍耐強く耐えている人々の姿に心を動かされました。

現在、日系人の五世、六世がアメリカで生活していますが、二世が誕生したのがわずか一四八年前だと聞き、遠い昔のことではないのだということを実感しました。そしてこのような日系人に起こったことを忘れず、悲劇が二度と繰り返されないように努めていくのが、日系人博物館を訪れた私たちの義務だと思っています。だから、まず自分にできること



日系人博物館

として、今回学んだことを家族や友人やその他の人々に伝えていこうと思います。そして今回学んだことを活かして人生に役立てていこうと思います。

## 11日間の滞在で、このような現地でしか得られない貴重な体験をさせてくれたことに本当に感謝しています。

松山市立内宮中学校 越智 悠愛

面接の結果が届いた時、最初は夢かと思いました。まさか本当にアメリカに行けるとは思っていなかったからです。そして4回の研修を終え、待ちに待った7月26日。夢が現実になったこの日は私は「生忘れないうでしよう」。

アメリカでの11日間はほんとは充実していて、私にとってとても素晴らしい、成長させてくれる日々でした。特に私がこの11日間で思ったのは、アメリカの人たちは初対面の人でも壁を作らず接してくれるという事です。ホストファミリーはもちろんのこと、大学寮の学生スタッフ、姉妹都市協会の皆さん、レストランのスタッフ、ホテルのスタッフ、交流活動をした現地の高校生など本当にたくさんの方々と交流しましたが、皆とても気さくで親切で、私も見習おうと思いました。

また、アメリカは日本に比べセキリティが厳しけれど、日本より何倍も自由な国です。一人一人が自分の意思をしっかりと持ち、自分の良いと思うことは良い、嫌だと思ふことは嫌、とはっきりと伝えるのです。時々言いすぎることもあると思いますが、やっぱり仮面をかぶって嘘をつかれるよりはるかに良いです。

私は今回アメリカに行けて本当に良かったと思っています。派遣を通して人間として本当に必要なこと、集団行動の大切さ、人の優しさ、気づくことができ、素晴らしい思い出が出来たからです。

今回の研修でお世話になった先生方、JTBの方、松山市の皆さん、そして家族に感謝の気持ちを伝えたいです。貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました！



温かく接して下さったホストファミリー

## 視野の広がった11日間

愛光中学校 武知 璃々花

私はアメリカでたくさんの方々の貴重な体験をさせてもらいました。最初は言葉が通じること、向こうの環境に慣れることができるかなど、不安でいっぱいでしたが、現地の人はとてもいい人ばかりで楽しい11日間になりました。日本語の通じない環境での生活は、私にとって新しい価値観を作り直しました。

本場の英語は日本で勉強していたものとは全く違いました。今までは頭の中でよく考えながら英文を作り、発言するようにしていましたが、それでは相手の人を待たせてしまうことになるので、英語が出てくるようにしなければいけないということを感じました。また、アメリカの色々な場所を訪れた中で特に心に残ったのは、全米日系人博物館への訪問でした。つらい差別などを受けるなかで日本人が頑張ってきたという話を聞いて私たちがそのような姿勢を見習うべきだと思いました。

アメリカは、広さだけでなく、何もかもが大きい国でした。ホームステイ先の人もすごくおらかな人でした。日本では学べなかった沢山の事を経験させてもらい、今までは違う視点で物事を考えてみたいと思います。今回の派遣はとてもかけがえのないものになりました。本当にありがとうございました！



Another Game!

## アメリカでの経験

松山市立余土中学校 田中 敦己

僕は今回の研修で、日本とアメリカの違いをたくさん知ることができました。気候は日本と違い乾燥していて日陰では涼しく感じました。そして街ではストリートパフォーマンスをしている人がいたり、様々な人種の人がいったりして日本とは違う光景でした。

また、サクラメントの市内見学や、オールドサクラメントの散策など楽しかったこともたくさんありました。ロサンゼルスの日系人



感動的なエンデバーとの出会い

博物館では辛い過去の事実も学びました。そんなたくさんある経験をした中で特に心に残ったことが二つあります。

一つ目はカリフォルニアサイエンスセンターへ行ったことです。ここには2001年最後の飛行を終えたスペースシャトル「エンデバー」が展示されています。実際に宇宙に行ったその機体は心に響くものがありとても感動しました。他にもたくさん展示物が有りとても充実した時間を過ごしました。

二つ目は日本語が通じないアメリカで英語を使ったことです。日本語では言いたいことが言えない英語ではそれが難しく、自分の力不足を痛感しました。ホームステイ先では自分の知っている単語を繋げてコミュニケーションをとりました。何とか楽しく会話することができてとても嬉しかったです。

今回僕が特に大切だと感じたことは「自分から行動する」ということです。どこでも自分のやりたいことは待っているのではなく、自分から行動しないと達成できないと感じました。この研修で見たことや感じたことは学校で多くの友達に伝えようと思います。そして「自分から行動する」を実行して学校生活をより豊かなものにしていきたいと思います。

最後に、この研修に関わってくれた全ての人に感謝します。ありがとうございました。

## Thank you so much

松山市立津田中学校 得居 未花

「こんにちはアメリカ!!」友達とそう叫びながら到着したサンフランシスコ空港。私にとってアメリカに行くことは、憧れであり夢でした。その夢が実現したとき私は嬉しくてもうありませんでした。

サクラメントには7日間滞在しました。その中で心に残っているのはホームステイです。ホストファミリーには本当の家族のように接していただき沢山の場所に連れて行ってもらいました。また、遅くまで色々な話をしたり



IN-N-OUTの一押しチーズバーガー

もしました。この2日間は私にとって特別なものになりました。

また「NINETY」での食事にも心に残っています。アメリカに来て初めて自分で英語を使ってチーズバーガーを注文しました。人気のハンバーガーショップだけあって非常に美味しかったです。また行きたいです!

サクラメント滞在中は、ロサンゼルスへと向かいました。ロサンゼルスはアメリカの中心的な都市でワクワクしました。ハリウッド、カリフォルニアサイエンスセンター、メジャーリーグ観戦や夜景見学...どれも心に残る出来事です。

私はアメリカに行きアメリカの良さを見つけ、またそれと同時に日本の良さも見つけることができました。この海外派遣を通して、沢山の人と出会い、経験し、学び、自分の今後の目標を見つけることができました。一つ、分かったのは、何か伝えようとする気持ちが大切であるということです。新たな目標に向かってこの先も頑張ろうと思いました。こんな素敵な機会を与えてくださった全ての人に感謝したいです。最高の思い出ができた夏になりました!!

## 英語漬けの毎日

愛光中学校 中村 侍人

僕はアメリカに行くにあたって、一つの目標があった。それは、「たくさん外国人と積極的に話すこと」。本来、話好きの僕はこの目標達成に自信があった。そしてアメリカに到着した。

1日目。最初に英語を話す機会に直面したのは、昼食時のレストランだ。しかし、店員の英語の速さに緊張した僕は、話すどころか聞き取ることもできなかった。

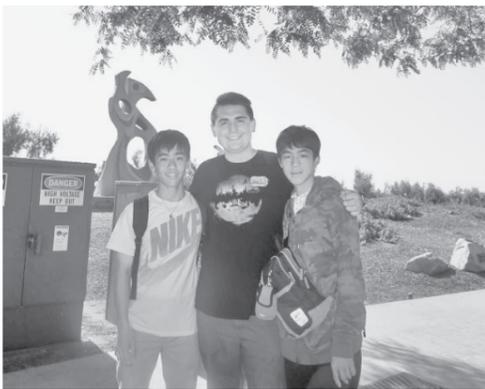
そして迎えたホームステイ。ステイ先のイサンとタニエルの兄弟の他に、彼らの友達も僕らを迎えてくれて、日本のことやアメリカの歌手や映画についての話をし、「体格は違うけど僕らと話題は一緒なんだな」と嬉しくなると、楽しく英語で会話をすることが出

来た。その後、僕はプールに出かけ、ジェスチャーを交えながらではあったが、英語で打ち解けあうことが出来た。

2日目、3日目と日を追うごとにホストファミリーとも仲が深まり、英語での会話を沢山することが出来た。ホームステイが終わる頃には、緊張することもなく、アメリカの人と抵抗なく話せるようになったような気がした。

そして、研修7日目。この日は地元の高校生と一緒にサンディエゴとサンマルコスを巡る日、僕のパートナーはジェイクだった。ジェイクはとても人懐っこい性格なうえ、日本にも興味があったので、とても気が合い、積極的に僕から話しかけることができ、会話が弾んだ。

この研修を通して、僕は自ら積極的に話しかけることの難しさ、面白さ、大切さを改めて学んだ。



人懐っこいジェイクと！

## アメリカに行くと気がいいんだよ

松山市立桑原中学校 平本 成



アメリカの街並み

僕はアメリカに行ってみて、普段テレビで見られるおもしろさや近代的な街並みなどを体験することができましたが、二つ気になることが

ありました。アメリカには「こは掃除をしなきゃいけないんじゃないか」というような場所がたくさんありました。例えば昼食で行った「Diner」の店はテーブルの下にゴミがたくさん落ちていました。そしてゴミ箱に入りきらずに落ちたゴミはそのままになっていました。

このようにアメリカには綺麗にしようと思っている人が少ないように感じました。日本でも同じことが言えます。道路にたばこの吸殻をおいたり、ゴミをポイ捨てしたりする人もいます。

町を綺麗にすることは大切であり、それは誰にでもできることです。ゴミはゴミ箱に捨て、もしそこにゴミが落ちていたら拾って捨てればいだけのことなのです。僕にもこういうことは簡単にできるので松山市も綺麗にしたいと思います。単純なことが大事なことであることも学んだ派遣でした。

## 生まれて初めてのアメリカ

松山市立雄新中学校 藤田 ねね



忘れないよ！

私が一番驚いたことは現地の方々の優しさです。建物に入るとき、どこにいても男性がドアを開けてくれます。写真を撮ってほしいと初めて会った人に頼んでも快く引き受けてくれます。それどころか、私たちを笑わせようとまでしてくれるんです！私はよく人見知りをしてしまうので日本では人に話しかけることなんてできません。ですから言葉の異なる人がたくさんいるアメリカで自分から人に話しかけることにはなだらうと思っていました。私は日本にいた時以上に話しかけていました。それは、「人見知りを克服したい」という自分の意思もあったのかもしれないが、英語があまり上手ではない私の話を、一生懸命に聞いて理解しようとしてくださったみなさんのおかげでもあると思います。

みなさんもこれから海外に行くことがあるかもしれない。そのとき、きつと話せないということから不安になるでしょう。ヘタに話しかけて現地の人を怒らせてしまったらどうしようなどと思うでしょう。でも、現地の方々はみなさんが想像しているよりも良い人が多いです。向こうは一生懸命私たちの話を聞いてくれるので、こちらも一生懸命、恥ずかし

しがらず話しましょう。私は今回の研修で自分が見てきたすべてを友達に話して外国の良いところも悪いところも知ってもらいたいのです。現地でお世話になった方々へ I never forget your kindness.

## アメリカ体験記

松山市立勝山中学校 村中 賢成

この11日間のアメリカ研修で僕は多くのことを学びました。

心に残っているのはホームステイです。僕のステイ先は、Wharton一家でした。プライベートな事なので詳しくは聞けなかったのですが、Wharton一家にはお母さんがいませんでした。そしてお父さんは体育の先生なので、家事は殆ど16歳の長男がしていました。アメリカでは16歳から車の免許が取れるのですが、彼はもうすでに持っていました。そんな家族と三日間過ごしました。

ホームステイの中で特に心に残ったのが、長男が家の周りの街並みを紹介してくれたことと友達のところへ行って、大勢でパーティーをしたことです。

街並みを見て周ったときは、すごく楽しかったです。歩いていくと、ストリートパフォーマンスをしている人、あるところでは、音楽が流れてパーティーをしている人、そしてカフェにはのんびりと時間を過ごす人がいました。そこでは時の流れがとてもゆっくり流れているように感じました。この時は今アメリカにいるのだからと実感しました。パーティーの時はその友達と一緒に、アメリカの他のメンバーもいたので緊張もほぐれました。お昼ごはんを立食パーティーで食べたり、ゲームをして盛り上がりました。

僕がこのアメリカ派遣で一番感じた事は、学校の英語の授業が理解出来て、本場ではリスニングが難しいという事。言いたいことは伝わるのですが、聞き取るのがかなり難しかったです。でも自信を無くすのではなく、チャレンジすることも大切だと感じました。「Don't be shy!」の精神でこれからも頑張りたいです。



Don't be shy!

## 引率の先生方



## 初めてのアメリカと初めての Sacramento Tour Communication Episode

松山市立椿中学校 校長 上岡 孝

今回、小学校教員として初めての海外派遣引率の機会をいただいた私には、以下、3つの目標がありました。

1 姉妹都市サクラメントを起点とする海外派遣の意義をより深く理解する。  
2 小中連携の大切さが問われる今、小学校における外国語活動や国際理解教育のよりよい在り方を考える。  
3 本研修を支える方々の活動や意志から、自分自身ができることを探る。

そして、事前研修から事後研修まで、多くの新たな視点を獲得する場面に会いました。ここでは特に心に残った出来事をご紹介します。

何をするために、事前研修は、異文化理解や自己紹介、実践的コミュニケーションのワークショップ等、サクラメントでの積極的行動を進めるための有意義で楽しいものでした。子どもたちがつづけるために自信を積み重ね、渡米への実感を高めていくのが見て取れました。現地でのパーティーのための日本での準備は殊更でした。「何をどうすれば喜んで見てもらえるのか」「交流の意欲をどう伝えればいいのか」等、全員で真剣に話し合いました。日系三世の皆さんもご存知の歌を選び、懸命に練習する子どもたちの様子に、心を結ばうとする温かさを感じました。

現地では、ロスの高校生との交流の場でも歌い交わりました。全員が個性のあった今年、「何を何のために伝えるのか」を子どもたちと共に学び直ししました。

二日目は降はプログラムが盛りだくさんの毎日であったが、感動したことが二つある。まず、二日目はグローリア会長をはじめとする姉妹都市協会役員、ホストファミリー、現地でお世話になった方々の心からの温かいおもてなしと心遣いには我々派遣団は生忘れてはならないくらい感動をいただいたこと。二日目は派遣生たちの見事なまでの順応性と何事にも積極的なチャレンジしていく姿であった。子どもたちの可能性を発見できたことに非常に頼もしさを感じることができた。私はと言え、アメリカでの10日間、話しかけられた内容の理解が30%、伝えたい内容が20%程度のコミュニケーション能力しか発揮できず、簡単なあいさつや買い物程度の英会話ができるようになっただけだった。

海外派遣終了後、ずいぶんたくましくなった16名の派遣生たちの姿や現地での写真の数々を見ると、あらためて今回の海外派遣に参加させていただいたことに感謝するとともに本事業に携わっていただいた関係者、スタッフの皆さん、また、添乗員の余財さんには心からお礼を申し上げます。

## Sacramento Tour Communication Episode

松山市立雄新小学校 教諭 吉見 香奈子

今回、小学校教員として初めての海外派遣引率の機会をいただいた私には、以下、3つの目標がありました。

1 姉妹都市サクラメントを起点とする海外派遣の意義をより深く理解する。  
2 小中連携の大切さが問われる今、小学校における外国語活動や国際理解教育のよりよい在り方を考える。  
3 本研修を支える方々の活動や意志から、自分自身ができることを探る。

そして、事前研修から事後研修まで、多くの新たな視点を獲得する場面に会いました。ここでは特に心に残った出来事をご紹介します。

何をするために、事前研修は、異文化理解や自己紹介、実践的コミュニケーションのワークショップ等、サクラメントでの積極的行動を進めるための有意義で楽しいものでした。子どもたちがつづけるために自信を積み重ね、渡米への実感を高めていくのが見て取れました。現地でのパーティーのための日本での準備は殊更でした。「何をどうすれば喜んで見てもらえるのか」「交流の意欲をどう伝えればいいのか」等、全員で真剣に話し合いました。日系三世の皆さんもご存知の歌を選び、懸命に練習する子どもたちの様子に、心を結ばうとする温かさを感じました。

現地では、ロスの高校生との交流の場でも歌い交わりました。全員が個性のあった今年、「何を何のために伝えるのか」を子どもたちと共に学び直ししました。

二日目は降はプログラムが盛りだくさんの毎日であったが、感動したことが二つある。まず、二日目はグローリア会長をはじめとする姉妹都市協会役員、ホストファミリー、現地でお世話になった方々の心からの温かいおもてなしと心遣いには我々派遣団は生忘れてはならないくらい感動をいただいたこと。二日目は派遣生たちの見事なまでの順応性と何事にも積極的なチャレンジしていく姿であった。子どもたちの可能性を発見できたことに非常に頼もしさを感じることができた。私はと言え、アメリカでの10日間、話しかけられた内容の理解が30%、伝えたい内容が20%程度のコミュニケーション能力しか発揮できず、簡単なあいさつや買い物程度の英会話ができるようになっただけだった。

海外派遣終了後、ずいぶんたくましくなった16名の派遣生たちの姿や現地での写真の数々を見ると、あらためて今回の海外派遣に参加させていただいたことに感謝するとともに本事業に携わっていただいた関係者、スタッフの皆さん、また、添乗員の余財さんには心からお礼を申し上げます。

## I would like to thank all of the people!

愛媛大学教育学部附属中学校 教諭 濱田 眞基子

生徒が笑顔で積極的に英語でコミュニケーションすることの素晴らしさを経験した研修でした。ウェルカムパーティーでは、ホストファミリーと初めてハグを体験し、アメリカ式の温かい挨拶に感激の様子でした。特技の日本の伝統文化を披露する生徒も多くいて、異文化交流の大切さを目の当たりにしました。また、姉妹都市協会の方々が「相手をrespectする。ドアを開けたいとき、人がつづけたらThank you!」と言。自分が先に開けて待つ。こういう習慣を日本に持って帰って。知らぬ顔でスルーしないで。」と、ちょっとした行動から他人を思いやることの大切さを教えてくれました。この言葉をすぐに生かそうとしている生徒たちの行動に頼もしさと嬉しさを感じました。

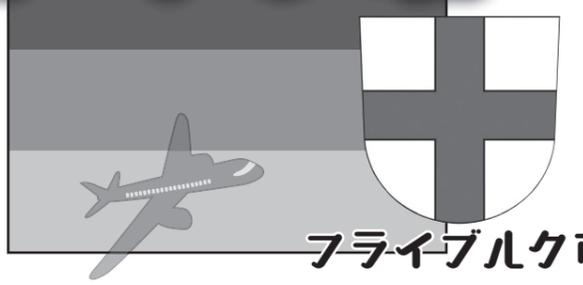
今回の研修を通して、人の話を聴くこと、積極的に自分の考えや意見を分かちやすく伝えるコミュニケーション力、また、課題発見・解決能力、表現力、判断力など生きる力を育む教育活動が必要であると改めて実感しました。また、外国の歴史や文化、生活習慣の違いを体験することで、ふるさと日本、松山を大切にしようとする心と行動につながります。この研修を通して生徒の言動から、ふるさとのことについて再度勉強しようという意欲が伝わってきました。

California大学の学生寮(写真)では、私自身たくさんの思い出がありました。姉妹都市協会の方々が、毎日おもてなしの心と深い愛情をもって私たちに接してください。感謝の気持ちで一杯になりました。今回このような機会に恵まれましたことに感謝するとともに、この交流事業に参加する機会を得た生徒の皆さんの今後の活躍を期待します。

California大学の学生寮(写真)では、私自身たくさんの思い出がありました。姉妹都市協会の方々が、毎日おもてなしの心と深い愛情をもって私たちに接してください。感謝の気持ちで一杯になりました。今回このような機会に恵まれましたことに感謝するとともに、この交流事業に参加する機会を得た生徒の皆さんの今後の活躍を期待します。

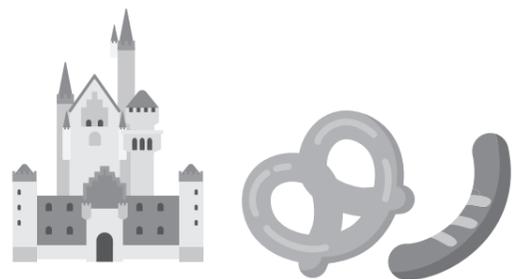


# ドイツ班



## <ドイツ班日程>

|         |                     |  |
|---------|---------------------|--|
| 第1日     | 7月21日(木)            | 松山発<br>フランクフルト着後、<br>フライブルクへ移動   |
| 第2日     | 7月22日(金)            | ゲーテギムナジウム校訪問<br>フライブルク旧市街視察<br>フライブルク大学、<br>大学ミュージアム見学<br>市役所表敬訪問<br>BQパーティー |
| 第3日~第4日 | 7月23日(土)<br>~24日(日) | ホームステイ   |
| 第5日     | 7月25日(月)            | サッカースタジアム視察<br>ドイツ語体験教室<br>エコステーションで環境学習                                     |
| 第6日     | 7月26日(火)            | チーズ作り体験<br>ベルン市内見学   |
| 第7日     | 7月27日(水)            | トゥーン湖クルーズ<br>バレンベルグ野外博物館<br>木彫り体験  |
| 第8日     | 7月28日(木)            | ゴールデンパスライン乗車<br>シヨン城見学<br>オリンピック博物館  |
| 第9日     | 7月29日(金)            | 国際赤十字博物館<br>国際連合ヨーロッパ本部見学<br>ジュネーブ市内ウォークラリー                                  |
| 第10日    | 7月30日(土)            | エヴィアン、イボワール視察<br>ジュネーブ発  |
| 第11日    | 7月31日(日)            | 松山着  |



## ドイツに行こうと決意したこと

愛媛県立松山西中等教育学校 阿部 恭子



最終日に家の庭で

12時間の長いフライトを終え、私はヨーロッパの地に降り立った喜びでいっぱいでした。ホストファミリーと対面し、これから始まるホームステイへの期待で胸が高鳴りました。

ドイツでの生活は、見るもの、聞くもの、体験するものすべてが新鮮でした。日本では、寿司、天ぷらなど昔から魚を食べる習慣がありますが、ドイツではあまりそのような習慣がありません。また、私のホストファミリーは、家族全員で過ごす時間をとても大切にしていたように思います。毎日が忙しい日本人とは違い、時間に余裕があると感じました。それに、日曜日はすべてのお店が閉まります。不慣れな環境でしたが、そこに住む人にとっては利点なのだと感じました。ホームステイをすることで、観光客の目線だけではなく、そこに住む人の目線で見ることができ、そこには驚きや発見がたくさんあります。

## 新たな決意

松山市立雄新中学校 入江 志乃



大好きな私の家族♥

く、そこに住む人の目線でドイツを堪能することができたと感じています。また、私のホストファミリーは難民を助けるボランティアをしていたため、難民キャンプを見ることができました。世界中で話題になったことに直接触れることができ、難民の受け入れについて考えることができました。今回の派遣で、ドイツの良さをたくさん知ることができました。また、11日間日本を離れて過ごし、日本の良さに改めて気づくこともできました。この経験を、将来にも生かしていきたいと思っています。

ホームステイを通しての語学力や積極性の向上、実際に海外に行くことでしか培われない経験、発想力が豊かになったり、今まで自分が気にも留めてなかったことに興味を持つようになったり...などたくさん学ぶ機会を得ることができました。

海外派遣だっただけで、ホストファミリーの方達と積極的に話して仲良くなり、帰国後もメールのやり取りをしたいなと思っていました。ですが、実際に話すとすると、文法があつていいのか不安で、知っている単語を並べただけといった会話になってしまいました。そんなこともあり、お別れの時には、「まだ一緒にいたい、もっとたくさん話をしたい」と話したかった。という伝えきれない思いが溢れてきて、泣いてしまいました。そのとき私は、「必死に英語を勉強して上手に会話ができるようにして、もう一度ドイツに行こう」と決意しました。

まだまだここには書ききれないほどの素敵な経験をさせてもらえたことに感謝し、この貴重な体験を、これからの国際交流活動に生かしていきます。

## ホームステイDEフライブルク

新田青雲中等教育学校 上田 紗里緒

フライブルクに着いてすぐのホームステイはドキドキが始まりました。初めて話したたどしいドイツ語でのあいさつ。緊張で夕食も喉を通りませんでした。私の部屋はリビングから一階降りたゲストルームで、お風呂やトイレも私専用で使うことが出来ましたが、そのフロアではひとりきりなので、夜は少し怖かったです。裏庭には大きなトラネポリンがあつて思い切り飛び跳ねることが出来ました。また、蜂を飼っていて、蜂蜜を採って食べているそうです。さらにウサギもいて、庭というよりはちよつとした森のようでした。すぐそこにはフランスが見えるという、島国日本から来た私には驚きの連続でした。

ホストファミリーはリヒター夫妻とヨハンナ、ユリアの姉妹に長男ベンヤミンの5人家族でした。休日にはショッピングや散歩をしたり、プールに行ったりしました。そこで開催されたスイミング大会に家族対抗リレーで行きました。

ヒター家の一員として出場し、27家族中5位に入賞しました。日本から来たガリオ(ドイツ語だとザリオ)と選手紹介され、賞状ももらったり、そして何よりベンヤミンがハイタッチで喜んでくれたことがとてもうれしかったです。



Juliaとシュヴァルトツヴァルトを散策

## This experience will change me!

愛媛大学教育学部附属中学校 金井 優希

「ドイツに来たんだ!」13時間のフライト後、これからどんなことが待っているのか期待で胸がいっぱいでした。

一番の思い出はホームステイです。到着後すぐにホストファミリーとの対面で、上手くコミュニケーションが取れるのか不安でした。しかし、出会った瞬間に私を明るく迎えてくれて、その不安が一気に消えました。最初はホストファミリーが積極的に話しかけてくるのに戸惑い、「Yes」「OK」などの簡単な受け答えしかできませんでしたが、このままではいけないと思い、知っている単語や身振り手振りで松山の事や日本の事などを紹介していくうちに話の幅が広がりました。見る

もの、触れるもの、全てが新しい発見の連続で、楽しい時間が過ぎるのはあつという間で、Melissaは日本にとっても興味があり、日本のアニメと一緒に見たり、「これは日本語では何というの?」と質問してきて、私もドイツ語を教えるもつたりするうちにお互いの文化に興味を持ち、理解しあうことの楽しさと素晴らしさを実感しました。この派遣で自分から積極的に話すことの大切さを学び、英語力をつけようと思えるようになりました。様々な文化に触れ、多くの人と出会えたこの派遣は私の一生の宝物です。この機会を与えてくださり支えてくれた方々、ドイツ班のみんな、本当にありがとうございました。



ホストファミリーと紙飛行機を楽しみました

## 最高の夏

済美平成中等教育学校 國分 さくら

羽田空港を出発して12時間、フランクフルト空港に着いた時、わたしは今までになくらいドキドキしていました。空港内や道路標識からも「本当に海外に来たんだなあ」と実感しました。「ヨーロッパと言われてイメージする景色が目前に広がっていて、初めて海外に来た私には新鮮で感動するものでした。」この派遣で私は英語を積極的に使おうと思っていました。しかし、ホストファミリーと会って「ドイツの印象は?」とか「フライトはどうだった?」と聞かれると自分の思ったことを英語にするのが難しく、伝わっていない不安になりました。それでも、笑顔で最後まで聞いてくれたので少し緊張がほぐれました。最初は聞かれたことに答えるだけでしたが、アంతゥーと仲良くなつて一緒にボウリングに行ったり、湖に行ってボートに乗ったりしたときは、自分から気になったことを聞いて会話が出来たのでよかったです。湖からの帰り、「道を覚えてない」と言われた時には焦りま

た。最初は聞かれたことに答えるだけでしたが、アంతゥーと仲良くなつて一緒にボウリングに行ったり、湖に行ってボートに乗ったりしたときは、自分から気になったことを聞いて会話が出来たのでよかったです。湖からの帰り、「道を覚えてない」と言われた時には焦りま



5日間一緒にすごした部屋

## 日本とは違うドイツ

愛光中学校 仲神 光一郎



アルプスと自分

初めてのホームステイに期待と不安を抱きながらドイツに到着しました。フランクフルト空港からフライブルクまでのバス移動の間に一回だけパーキングエリアに寄りました。飲み物を買っていると、たくさんの外国人の方が僕たちを遠巻きに見ていたので、「ああ、この国では僕たちは日本の代表として見られているんだ」と気が引き締まる思いでした。到着後すぐにホストファミリーの方と会い、話したが、車の中でいろいろと話をしているうちに打ち解けることが出来ました。

パートナーのピルミンと過ごした時間は5日間。すぐに仲良くなれましたが、楽しい時間はあつという間に過ぎてしまいました。ピルミンの名字であるフォーゲルというのにはドイツ語で鳥という意味だと彼は嬉しそうに教えてくれました。ドイツには5日間滞在したにもかかわらず僕はドイツ語を4つしか覚えませんでした。全部ピルミンが教えてくれたのです。

ドイツ人は一人ひとりが明確な哲学を持っている。ビルミンの双子の兄のポールは「自分はデジタルアンで、直観や洞察を重視する。特に禅に関心があるんだ」と言っている。僕はよくそんなんで生きていられるなと思った反面、彼のことをうらやましいと思っていました。

一番心に残っているのはホストファミリーが行った博物館です。ローマ帝国時代のお金、農具、装飾品などが展示されていて新鮮でした。ホストファミリーとの別れはつらいものでした。いよいよバスに乗り込むというときにビルミンはどっから覚えてきたのか、「さよならありがと」ともだれか「壊れかけのロボットのようなことを言ったので、危うく泣きそうになりました。出会えて本当によかったです。

僕は今回の派遣を通して、いろいろな考え方がいることを知ることが最も重要だと学びました。世の中にはいろいろな考え方があり、そのほとんどは説得力のあるものなので、自分だけがポリシーとするかはそれほど重要ではありません。しかし自分の主義にこだわり、相手を理解しないような態度を取ってはいけません。ペジタリアンであっても仏教に感化されていても、相手を理解することが本場の国際化に繋がるのではないのでしょうか。

最後にこのような素晴らしい時間を与えてくださったすべての方々に感謝します。ありがとうございました。

## Danke schön!

松山市立鴨川中学校 中西 桜

今回のドイツ研修で印象深かった経験は、ホームステイとエコステーション見学です。ホームステイ先は4人の子どものいる6人家族の家庭でした。訪問した時にはさらに親戚の方が3人来ていて大家族でした。私は兄弟がいなくて、ドイツに行く前からホームステイをとても楽しみにしていました。しかし実際ホームステイしてみると、自分のしたい事はほとんど言わないと全員に放っておかれるような状況で、「I want to...」を何度も連発した事実に戸惑いましたが、この経験でずいぶん遅くなりました。海外では自分の意見をはっきり伝える事が大切だと痛感しました。

エコステーションでは環境先進国の取り組みを学ぶことが出来ました。ドイツの人々は、自動車の利用を削減するために積極的に自転車を利用します。そのため、道路には自転車専用のレーンが広く設けられています。また、自動販売機やコンビニエンスストアなども見ることはありませんでした。便利さよりも環境を大切にしているというドイツの人々の意識の高さに感動しました。緑の多いドイツの街並みは想像以上にすばらしかったです。

今回の研修では、予想外の出来事もあり

ましたが、ドイツはすばらしい国でした。また是非訪れてみたいと思います。研修に関わって下さった全ての方への感謝の気持ちを忘れずに、これから先の人生にいかしていきけるよう頑張ります。有難うございました。



ホストファミリーの皆さんと

## Ich liebe Deutschland

愛光中学校 松坂 悠成



フランスの城でみんなと

僕はドイツへ行く前、英語を話すことや、ホストファミリーと仲良くやっていくことには自信があったのですが、そこでの生活でただ二人の日本人になる事に大きな不安がありました。日本では家族や慣れ親しんだ人間関係の中で生きていたからです。ところが、ホストファミリーは僕に不安を片時も感じさせませんでした。むしろ思っていた以上に打ち解け合え、楽しい時間を過ごせました。

そして何より僕が感じたのは、ドイツ人の良い意味での自由さです。日本人は、毎日忙しい朝を過ごし、学校は朝から夕方まで、夜も宿題などが大変だ、といった生活を送っていますが、ドイツ人は朝ゆっくり支度をし、学校は昼まで、夜もんびりとした時間を過ごします。これほど生活が自由なだけあって、心も非常に広い。いつか自分の力でこの寛容な国ドイツに行き、また必ずホストファミリーに会いたいと思います。

パートナーのアントニオは日本のアニメが好きで、いくつかの日本語を知っていました。日本の魅力がドイツにも伝わっているのは誇らしかったです。また、日本語を教えてあげる

と喜ばれました。アントニオの弟妹とも仲良くなれました。この派遣で、僕は特に人との出会いの大切さを学びました。ホストファミリーだけでなく、一緒に旅した友達や先生方にはとても感謝しています。ありがとうございました。

## はじめだらけ

新田青雲中等教育学校 松島 ニコラス 高志



別荘からの帰り道

これまで海外旅行は何回もしたことがありますが、今回の海外派遣は僕にとつて特別なものでした。それは初めて家族と離れ、自分ひとりでホームステイをしたからです。いつものように、母や兄が僕の代わりに通訳をしてくれない。そのため、事前研修では英会話やドイツ語を一生懸命勉強しました。自分から話しかけるのは苦手でしたが、ホストファミリーと片言の英語で会話をしていくうちに、次第に自分から意見を言えるようになっていきました。

ドイツでの一番の思い出は、ホストファミリーと過ごした週末です。現地の人もめったに会えない車掌さんだったり、ぎゅうぎゅう詰りになりながら車で別荘に行き遊んだりしました。

また、スイスで国際連合に行き、様々な会議室を見学してもらいました。通訳の仕事に興味を持っている僕にとつて、実際に通訳の仕事場を見られたことはとても良い経験でした。ガイドさんの説明で、通訳にもものすごい集中力と判断力が必要だと知りしました。

今回、派遣で様々な経験ができ、MICの皆さんや先生方、そして家族に感謝しています。派遣で学んだことをこれからも活かしながら、日本と海外の架け橋となっていきたいです。

## フライブルクで待たれて

松山市立道後中学校 松村 幸史朗

もう少しでフランクフルト空港へ着陸する飛行機の中、僕は期待とうれしさ、興奮が入り

り混じって思わず笑顔になっていました。これが初めての海外で今まで一度も「外国」というものを経験したことがなく、今思うと同じ地球にありつつもどこか自分とは違う世界のよさを感じていたのかもしれない。空港に着くとそこからバスでフライブルクへ移動し、ついにホストファミリーとの対面です。対面の瞬間はやはりとても緊張してなかなか言葉を発することができませんでした。ホストファミリーの家へ向かう車の中で何とか話すことができました。ただ、まだまだ不安だらけです。これから5日間のホームステイが始まります。

最初感じていた不安は、優しく接してくれるホストファミリーやホストファミリー、パートナーのヤスパーくんのおかげでだんだんと消えていき、そこをわくわくとした気持ちで占められました。自転車やバイクで登校したとき、その途中のピクニック。ヤスパーくんの友達との別荘へ行ったこと。大聖堂の周りの市場。一緒に映画を見たこと。おばあちゃんの料理。ホストファミリーと行った朝市。ボートに乗ったこと。街中のショッピング。最後の日、お寿司屋さんへ行ったこと。フライブルクでの経験はどれも刺激的で、本当に楽しかったです。「この街に来てよかった、心からそう思いました。

僕はこの派遣で自分の中に新しい意識が生まれたような気がしています。大きく世界に目を向けていこうとする意識です。これは海外を体験することしか生まれることなかったものだと思います。この意識はこれから人生を歩んでいく力になります。その力を原動力に大きく成長して、フライブルクをも二度訪れたいと思います。

最後に、この派遣を支えてくださったすべての人にお礼を言いたいです。本当にありがとうございました。



Sushi bar でホストファミリーと

## ドイツの親友

松山市立道後中学校 松本 佳子

私は小さい頃から、「外国人の友達が欲しい」と常々思っていました。その夢がこんなにも早く叶うとは思っていませんでした。

ホストファミリーのタインは同い年のベトナム移民の女の子でした。初めてタインと会った時、明るく話しかけてくれたので、すぐに打ち解けることができました。翌日は、タインと一緒にゲーテギムナジウムに行き、音楽の授業で演奏や歌を披露してくれました。3日目の自由行動では、ホストファミリーがプールに連れて行ってくれました。しかし、水がとても冷たく「入ったら風邪をひいてしまう」と思った私は、足だけ水につけていました。しかし、ドイツの人たちはそんなの御構い無しでプールに入っていて驚きました。4日目の自由行動では、湖に行き、周りを散歩した後、ボートに乗って綺麗な風景を満喫することができました。二人でたくさん写真を撮って楽しい思い出を作ることができました。そして、6日目の朝は、ホストファミリーとお別れしなくてはならないので、とても悲しかったです。二人でお別れのハグをした時、タインが泣いてしまい、私も泣きそうになりました。同時に「タインの家族に出会えてよかった」と心から思いました。今回はジェスチャーと片言の英語でのコミュニケーションでしたが、お互いの心の窓が開いていけば通じる、そんなことにも気づくことができました。旅でありがとうございました！

最後に、ドイツ班のみんな、先生方、国際交流センターの皆さん、そしてこの海外派遣に関わってくださった皆さんに「Danke schön」ありがとうございました！



ホストファミリーのお店の前での写真

## 学び、伝えたドイツでの14歳の夏

松山市立城西中学校 丸岡 瑠音

フランクフルト空港を出て、最初に目にしたのは連結バスです。一瞬目を疑い、ドイツに来たんだと感じ、私の胸は期待でいっぱいになりました。日本時間でぐっすり眠ってしまった後、バスを降りてさあホームステイだというときに初めて緊張がうまれました。ホス

トファミリーは笑顔で私を迎えてくれた。たくさん話しかけてくれました。私も次第に自分から話せるようになりました。お土産も好評でほっとしました。翌日はゲーテギムナジウムに自転車で行きました。クラスではたくさん質問をうけました。特にVeronikaと別れて男の子たちのお世話になったときは大変でした。みんなが一緒に話さずにはいられない。興味を持ってもらえ、伝えることもできたので嬉しかったです。週末には旧市街のドライブやミナスターの市場、国境を越えてフランスに連れて行ってもらいました。ホストファミリーが知らないことを詳しく説明してくれたので、私も積極的に質問したり感想を述べたりしました。

派遣中に何度か「日本の方がいい」ということがあり、その逆もありました。そして体験を通して多くのことを学び、知ることができました。今回の派遣に携わってくださったすべての人に感謝し、この経験を今後も活動にいかしたいと思っています。



ライン川沿いのレストランにて

## 言葉の壁を乗り越えて

愛媛大学教育学部附属中学校 宮内 嶺

10時間を超えるフライトを経て、ドイツに到着しました。綺麗な街並みを見てヨーロッパにきたのだと、興奮しすぎて爆発しそうになったのも束の間、初めて不安が押し寄せてきました。バスから降りた瞬間、耳に入ってくるのはドイツ語ばかりで、英語が通じることが心配になりました。その心配をカバーしてくれたのは、ホストファミリーでした。予想通り、二所懸命練習してきた英語とドイツ語が全く言葉になりませんでした。でも、ホストファミリーがゆっくり話してくれたおかげで、やっととてもな答えを返すことができました。それから徐々に会話ができるようになっていきました。

また、ホストファミリーはいろいろな所へ連れて行ってくれました。トラムに乗ってボウリングに行ったり、家についているプールに入ったり、フランスのお城にも行きました。本当にいろいろなことをしてくれました。ホストファミリーに

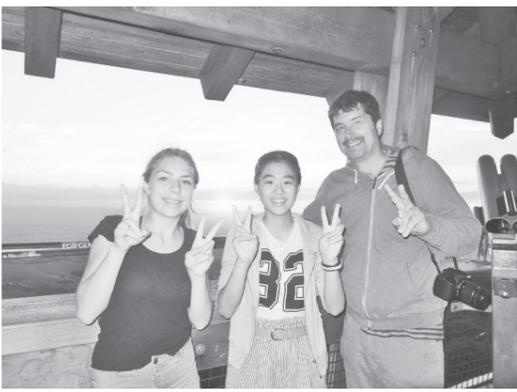
はとでも感謝しています。  
その後、スイスと、この派遣で二度目のフランスに行きました。スイスとフランスの国境にあるレマン湖にそびえたてた街はとても綺麗で、印象に残っています。チーズを作り、スイスの町でウォークラリーなどなど、とても充実した日々を別世界で過ごす事ができて、本当に良かったです。派遣に関わってくれた皆さん Danke schön!



シュネーブルクでの最後の食事

## Danke schön

愛媛大学教育学部附属中学校 森田 馨水



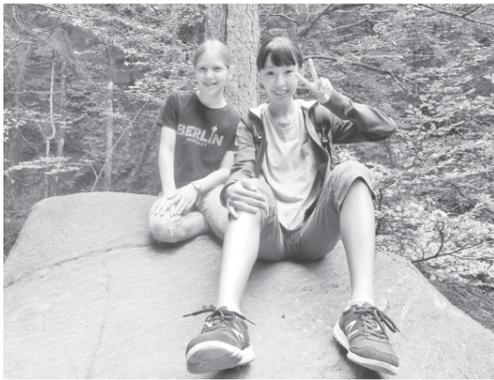
Sunset of Black Forest

私は、今回初めて海外に渡航しました。ドイツ、スイス、フランスを訪問し、とても貴重な体験ができました。  
ホームステイ初日は、まだ英語に慣れずホストファミリーとあまり話すことができませんでした。しかし、パートナーのママが分かりやすい英語に言い換えてくれたり、ジェスチャーを使ったりして、少しずつ会話に慣れること

ができました。ホームステイでは、大通りで買い物をしたり、フライブルクの近郊に行ったりする機会がありました。ドイツの町は松山と違ってとても古い建物が多く、ほとんどがレンガを用いた建物で、おとぎ話のような世界観でした。滞在中、最も印象に残っているのは黒い森に行ったことです。ホームステイ最終日に「Lily」とお父さんと派遣生ののちゃんといっしょに展望台に行きました。フランスの国境まで木々に囲まれている壮大な景色と夕日にも感動しました。  
帰国後、私はドイツでの出来事をたくさんの人に伝えたい気持ちで一杯です。またドイツに行く機会があれば行きたいです。ドイツ班のみんな、MICOの方々、引率の先生方、現地の方々、そして「Lily」、素敵な思い出をありがとうございました。 Danke schön!

## 人生の宝もの

松山市立余土中学校 吉岡 桃花



Ivaとハイキング

フランクフルト空港に着いてドイツ語の看板を見たとき、本当にドイツに来てしまった！と思いました。初めての海外で、しかもホームステイは不安な気持ちで一杯だったけれど、ホストファミリーが優しく笑顔で話しかけてくれて、すぐに不安な気持ちが楽しみと期待に変わりました。自由行動の日は、山へハイキングに連れて行ってもらいました。ハイキングの後には自分から意思表示をして、「スーパードラッグストアへ行きたい。」と伝えました。伝わるか不安だったけれど、うまく伝えることが出来てとても嬉しかったです。ホームステイ最後の夜は、私がちらし寿司とお味噌汁を作りました。ドイツにはピンク色の食べ物がありません。ドイツに「桜でんぶ」は何で出来ているのかとても興味を持って、みんな美味しく食べてくれました。英語がうまく聞き取れないこともあったけれど、ゆっくり話してくれたり、ジェスチャーを使ってくれたり、とても優しいホストファミリーで、最後にお別れするときは思わず涙が出てしまい、バスの窓から姿が見えな

くなるまで手を振り続けました。  
この経験は、私が今後ステップアップしていく礎になると思います。次にドイツへ行くときは、ドイツ語もペラペラでホストファミリーに会いに行きます!!最後に「この派遣に関わってくれた方々、本当にありがとうございました。この経験は私の人生においての宝ものです。 Danke schön!

## ホームステイを経験して

新田青雲中等教育学校 渡部 直樹

僕は、ドイツへの海外派遣を通して、文化や習慣の違いに驚きましたが、それ以上に、ホストファミリーと過ごす中で、ドイツの人の心の温かさや国境を越えて交流することの楽しさを体験することができました。  
ドイツに到着後、ホストファミリーの家で食事を御馳走になりましたが、食文化の違いに驚きました。夕食では、食べきれない程のサラダやスパゲティの量が驚きました。また、朝食では、毎日パンができました。朝食のパンは、日本のパンと比べて硬く、たつぷりとバターが塗られています。一箱のバターを2日間使いきることに驚きました。  
僕は、ドイツへ出発前、ホストファミリーとのコミュニケーションが不安でした。しかし、笑顔での出迎えや、フレンドリーな対応に、ホストファミリーへの感謝の気持ちと、ドイツ人の心の温かさを感じました。ホストファミリーと過ごした5日間は、フライブルクの街並みを一望できる場所へのハイキングや市場での買い物、湖でのボート体験、同年代とのスポーツを通じた交流などを通して、フライブルクの日常生活や自然、人を満喫する楽しい機会となりました。ホストファミリーへの感謝の気持ちでいっぱいです。

この他にも、ドイツやスイスでの多くの体験や交流活動は、僕にとって新鮮で、視野や考えを広げてくれる貴重な機会となりました。最後に、引率やお世話いただいた方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。



ハイキング

## 引率の先生方



## 中世の街並みを残すフライブルク

団長 松山市立雄新中学校 校長 玉川 徹



松山市の市草

7月21日早朝6時に松山空港に集合し、ドイツフライブルク市へ向け出発した。飛行機がフライブルク上空にさしかかると日本とは違う街並みに一気に気分が上昇し、憧れの地ドイツへの第一歩は大変感動的であった。フライブルクには夜9時ごろ着いたが、まだ空は明るく、異国の地にいることを強く感じた。駐車場ではホストファミリーが笑顔で待ち受けており、生徒たちは希望を膨らませつつそれぞれの家路へと着いた。  
翌朝よりフライブルクでの研修が始まった。学校訪問、旧市街見学、大学訪問、市役所表敬訪問、ドイツ語研修、エコステーション環境学習等過密なスケジュールをこなしていった。ゲート・キムナジウム学校訪問では熱烈的な歓迎を受け、一緒に授業にも参加した。旧市街地は中世の街並みを残しており大変素晴らしい。生徒たちはホストファミリーとの生活では言葉の壁にも苦労しつつ、懸命に交流に取り組んでいた。別れの日、生徒たちは感動の涙が止まらなかった。生徒たちはたくさんの思い出を胸に日本への帰路に着いた。

滞在中はほぼ全行程でお世話になったフライブルク在住の大門さん、ホストファミリーをお世話くださったケンプター先生、ご自宅でドイツ料理を振舞ってくださいましたフライブルク松山会のヴェルケさん、様々な場面で多くの方々々に案内していただき、

大変お世話になりました。貴重な経験を積んだ生徒たちには、これから松山の国際化の担い手になってくれることを期待しています。

## 「かわいらしい旅をせよ」

松山市立北条北中学校 教諭 宮内 京子

我が子とそんなに年齢のかわらない16人の引率。5日間のホームステイを終え、ホストファミリーと別れを惜しみ、涙する生徒たちの姿が一番心に残った。  
松山・自宅を出発して20時間以上かけ、ようやくフライブルク市に着いたかと思うと、そのまま、ホストファミリー宅へ。身体がくたくたのまま、言葉もなかなか通じない、食事など生活スタイルも違う。そんな環境の中で13、15歳の中学生が一人身を置き、生活をすることは、大変な苦労があったと思う。帰国する飛行機の中で、ある女子生徒に「ホームシックにならなかつた?」と尋ねると、「ホームステイ中、帰りたいと思った」と言っていた。  
スイスベルンの旧市街地、アルプスの山々や湖などの美しい景色は、絵葉書の中に自分が立っているような錯覚を覚えた。オリンピックミュージアムや国連本部の見学は教科書以上の学びがあった。  
この海外派遣を通していろいろな出会いがあり、言葉の壁を越えて自分の考えや思いを伝え合うことが経験でき、感謝・感動・学び・驚きの連続の11日間であった。そして、事前研修からこの11日間、そして報告会の発表を通して、生徒たち16人の成長の姿を感じることができ、「旅をさせてよかった」と心底思った。



絵葉書の中に

## 分かち合う精神

新田青雲中等教育学校 教諭 相原 彩乃



現地の人々と一緒にラジオ体操をする様子

この度のドイツへの海外派遣で、私は、海外の人々と交流するために最も大切なことは何か、ということを感じて帰ることができました。  
私は、今回の研修が人生初ヨーロッパでした。ドイツについては知識がなく、生徒と同じく、楽しみな反面、不安や心配もありました。事前研修では、生徒と一緒にドイツ文化や言語を学びました。新しいことを学ぶ難しさや楽しさを学生の時以来、久々に感じました。実際ドイツでは、通訳を通して会話をすることが多く、私が使った外国語は「Danke schön」(ありがとう)でしたが、この一言で自分の様々な思いを伝えることができた気がします。

そして、研修の中で一番印象に残っていることは、事前に準備をしていた日本のラジオ体操を披露した時のことです。現地の方々も一緒に参加して下さり、みんなでラジオ体操をすることができました。たとえ、言葉がわからなくても、お互い親睦を深めたいという思いがあれば、一緒に楽しい時間を過ごして、多くのことが学び合えることを実感しました。グローバル社会の中で、外国語を習得することも大事ですが、それ以上に「分かち合いたい」という思いこそが、互いのことを学び、理解することにつながるでしょう。今回、生徒たちが、片言のドイツ語や英語でも有意義なときを過ごせたのは、参加した全員に学ぶ意欲があったからだと思えます。生徒たちにはこの度の経験を活かして、将来もっと他国の人達と交流をし、グローバル社会で活躍することを期待しています。これからも松山市とフライブルク市がさらに親睦を深め、地域の発展に繋がることを心より願っています。





モンキーマスク&タイガーマスク降臨!

出迎えていたからです。その後の歓迎会でも、クイズを発表するた

め少し緊張してしまいました。でも、皆ノリがよく、拍手や歓声で盛り上げてくれたため、楽しく発表することができました。

韓国のホームステイや、日本での受け入れも笑顔でフレンドリーなパートナーと一緒に、韓国では伝統村や寿司バイキング、カラオケ等を、日本では回転寿司やそば打ち体験、すいか割り等を楽しみました。

言葉が通じなくても、スマホや身ぶり手ぶりで一生懸命伝えようとしてくれたパートナーやその家族に感謝、感激です!

私の目標は、少ししか達成できませんでしたが、これから日本でも、パートナー達のように明るくフレンドリーな人になつていきたいです。

### 言葉が通じない国で

松山市立城西中学校 兵頭 和紗

私は最初、不安など全く無く、「パートナーってどんな子なのかな。」「おみやげ何買つていこうかなあ。」と、楽しみに頭を振り回してました。ところが、いざ2日目パートナーと会って話してみると、私が学校で習ってないような難しい単語がたくさん出てきて、すぐには意味がわからず、とても緊張しました。Oh, yes, Thank you などといた初歩的なことしか言えず、一気に不安に押し潰されそうになりました。しかし、対面してから歓迎会、ステージ発表と続き、パートナーとたくさん話してコミュニケーションがとれるようになると、緊張感も無くなり、英語でいろいろなことを話せるようになりまし

た。ホームステイ先では、夜にカフェへ行き、今まで見たこともないようなおいしいスイーツを食べたり、アニメを見たりしました。パート

ナーと一番盛り上がりながら見たワンピースでは、キャラクターが吸つているタバコにモザイクがかけていたり、声も日本製のものとはイメージがかけ離れていたりして、アニメの表現にも日本との違いが感じられました。受け入れの時には、松山の魅力を伝え、相手にも楽しんでもらえるようなホームステイにすることを目指しました。うまい棒やこんにやくゼリーが欲しいのでコンビニに行きたいと言われたときも、がんばって英語で案内しました。パートナーと別れるときはすごく寂しかったけれど、パートナーが日本語で別れを言うてくれて、「いつの間にか覚えてたんだろ」と、少し嬉しくなりました。私もパートナーに教えてもらい、韓国語で数を数えたり、あいさつができるようになったりしたので、今回の研修を通して韓国との距離が縮まったような気がします。



ホストファミリーと一緒に

### ホームステイで得られた事

松山市立道後中学校 三好 孝奈

私は今回の派遣では、昨年の台湾での活動を活かそうと努力することができました。事前に韓国語をいくつか覚え、忘れてしまったときの為に単語帳を作りました。

1日目、韓国の仁川空港について、バスに乗った頃には暗くなっていたので感じませんでした。翌日のバス移動でハンガルばかりを見ることがなつてしまったので不思議な気持ちになりました。平澤と松山が似ている面もあり親近感を抱いていましたが、沢山の大きなアパートが至るところに建つていて驚きました。

パートナーのダウンちゃんもアパートに住んでいました。1日目のホームステイでは、晩御飯にブルギを食べたり、日本のアニメに韓国語訳がついているものを観たり、カラオケに行ったりしました。2日目には、朝御飯にパンを食べました。ダウンちゃんの父によると「朝はいつもパン」とのことでした。その後、植物園に行き、珍しい草木などを見たり、タッカンマ

リ(鶏を使った鍋料理)を食べたり、かき氷を食べたりしました。このホームステイで一番驚いたことはダウンちゃんが蝸牛(かたつむり)を飼っていたことでした。緊張している単語帳に頼ることも少しはありましたが、沢山の良い経験ができました。これからは、海外の方々と交流ができるように頑張りたいです。



パートナーと日本の文化体験

### 平澤で学んだこと

愛光中学校 毛利 優希



ホストファミリーと

僕が今回の派遣で一番心に残っていることは平澤市の人々との交流だ。平澤市にはここぞという名所がないらしく、地理的、歴史的事実を学ぶのは難しかった。そのため、少しでも韓国の文化を学ぼうとホストファミリーや松山と交流する人々をたくさん観察した。そして、観察した結果驚いたことが二つあった。一つ目は寿司を醤油だけではなくケチャップにつけて食べるということだ。これ

はそのホストファミリーが好きだからかもしれないが、とても驚いた。二つ目は平澤の人たちはとてもfriendly & positiveだということだ。とても歓迎してくれているのだということも分かっていて、僕は少し人見知りなところがあつたので、ちょっと引いてしまひ、話せなくなつてしまった。しかし次の日にはそのフレンドリーさに慣れ、たくさんのお話をできるようになつた。このことで、人見知りなところを克服し、初対面の人とfriendlyに話せるようになった。また海外に行くようなことがあれば、この課題を達成できるように頑張りたい。

### 不安を消すための努力

松山市立北条北中学校 山崎 秀世

僕は外国に自分で行くということがとても不安でした。家族も知り合いもいなくて、本当に一週間行けるのかと思つていました。ですが、不安な気持ちのままではいけないと思ひ、一緒に行く他の中学校の人で何でも相談できる友達を作ろうと努力をしました。すると、飛行機に乗っている間に、いつの間にか仲が深まつていきました。

韓国に行くから楽しいことがいろいろあります。二つ目は、みんなで乗って移動するバスの中です。仲がよくなつたと話したり、遊んだりするのがとても楽しかったです。二つ目は、平澤市の中学生たちと行動したことです。韓国の子はおもしろくて、フレンドリーで本当に楽しく、別れの時にさみしくな

るほどでした。三つ目は、ホームステイ先のことです。今回、たまたま運悪く、困つた事情でホストファミリーの父と母に会えませんでした。ですが、代わりにホストファミリーのいとこの方がお世話をしてくださいました。ホームステイ先でいろいろ遊んだり、出かけたりに仲がとて深まりました。また、いつか会えるのが楽しみです。

これらの体験は、貴重なことだつたと思ひました。この海外派遣プロジェクトに参加し



楽しかったホームステイ

### 引率の先生方

### 二度目の韓国研修

松山市立小野中学校 教諭 豊島 政一



世界文化遺産 昌徳宮にて

### 韓国、平澤市での研修を通じて

松山市立みどり小学校 教諭 毛利 美紀

「7月に1週間、中学生と一緒に韓国、平澤市に行つてきます。」と、担任をしている6年生の児童に伝えると、「どうして?旅行?お土産ある?」と、かわい返事が返つてきました。今年度より、小学校の教員も海外派遣事業の引率者として中学生と一緒に参加することになりました。

事前に韓国の文化、生活様式、韓国語、ハンガル文字の仕組み、英会話等の研修を受けました。研修を受ければ受けるほど、私は自分が韓国について何も知らなかつたのだと思ひました。「多くのものを見て、触れて、感じて、楽しみながら学ぶ研修にしよう。」と自分自身の目標を立て、韓国、平澤市に向けて旅立ちました。

平澤市では温かい歓迎を受けました。何とか自分の思いを伝えよう、韓国語と英語をミックスして話したり、韓国語手振りを使つたりして話している中学生の姿に、これこそ国際理解、国際交流の第一歩だと強く感じました。私は、挨拶と自分の名前くらいしか韓国語で話すことができず、もっと勉強しておけばよかつたと思ひ、自分も反省しています。「伝えたいこと、知りたいこと」ともつとあつたのに……」

あつたという間の7日間でしたが、私にとっては、まだ研修は終わっていません。私が学んだことを、クラスの児童に伝えるのが大事な役目が残つています。私なりの小さな国際理解、国際交流ができたと思ひます。

最後に、このような機会を与えてくださり、お世話になつた全ての方々から感謝します。本当にありがとうございます。



パートナーとの出会い

# 滞在中の一押しプログラムを紹介!



## アメリカ班

8月2日(火) アナハイムからサンディエゴの語学学校へバス移動。そこで待っていたのは日本に興味のある15名のアメリカ人高校生。日米混成チームが作られ、一路サンディエゴミッドウェイ航空母艦博物館へ。オリエンテーリング形式でクイズの謎解き。お昼はカリフォルニア州立大サンマルコス校へ移動、おいしいランチをいただき、午後は大学の施設見学、講義棟でクイズの回答、さらに博物館で学習した内容のグループごとのプレゼン(英語で!!)という盛りだくさんの企画。高校生との交流はもとより、大学の雰囲気も味わい、予想していなかった最高のプログラムとなり、派遣生がうれしい悲鳴をあげたことは言うまでもありません。



## ドイツ班

フライブルク訪問後スイスの各都市を訪れ、チーズ作りや木彫りなどスイスの産業や伝統工芸を体験しました。さらに、国際機関の集まるジュネーブでは、国際赤十字・赤新月博物館や国際連合ヨーロッパ本部を訪れ、世界という広い視点から日本を見ることができました。特に国際連合の会議室のアートには平和や人権に関する強いメッセージが込められているのが印象的でした。



この派遣を通して、自分の夢について考えたり、自分とは関係ない話だと思っていた“留学”を真剣に考えるようになったり、派遣生はそれぞれ将来につながる何かを得たようです。

## 韓国班



韓国班の一押しは、なんといっても相互交流のパートナー制度をとっていること! 平澤市内のプログラムでは、2日目の対面式からお別れ会まで共に活動を行うため、言葉の壁を感じながらも、一緒に過ごすことで、異国の友達と友情を深め、普段体験できないような異文化交流を行うことができます。今年は、韓国文化体験としてトーマボール作り、パートナーの家でのホームステイ、合同スポーツ大会、エバーランド(テーマパーク)での交流をメインに、パートナーとの絆を深めました。

外見は同じように見えるけれども、国が違えば文化も違う。最初はそんな違いに戸惑いながらも、交流を通じて新たな発見をし、差異を認め、それが友情に変わるとき、真の国際交流の楽しさを感じてもらえるはずです!

外見は同じように見えるけれども、国が違えば文化も違う。最初はそんな違いに戸惑いながらも、交流を通じて新たな発見をし、差異を認め、それが友情に変わるとき、真の国際交流の楽しさを感じてもらえるはずです!



## 中学生チャレンジプロジェクトとは?



### ①プロジェクトに参加できるのは

- 松山市内に住んでいる、中学1年生、2年生
- 広く世界の国々について興味があり、地域での国際交流活動に参加する意欲のある人(派遣生になるにはプロジェクトへの参加が必要です)

### ②プロジェクトの流れ



### ③ポイント対象となる国際交流活動例

- ・地球人まつり
- ・「のぞいてみよう!国際協力の世界」
- ・まつやま中学生海外派遣報告会
- ・「外国語deおしゃべり」(ジュニア編)
- ・MIC職場体験
- ・ホームステイプログラム など

4ポイント以上ためると応募可能



## “まつやま国際交流センター”ってどんなところ?

まつやま国際交流センターは、Matsuyama International Centerの頭文字をとって「MIC(ミック)」の愛称で親しまれています。松山で暮らす人たちが人種・国籍・宗教などにかかわらず、仲良く快適に暮らせるよう、さまざまなサービスを行っています。



### ①「私も何かしてみたい!」という皆さんへ

- ☆ボランティアガイドのための語学講座  
ボランティア活動に役立つ実践型語学講座(英語、韓国語、中国語)を半年ごとに開講しています。
- ☆ホストファミリーバンク  
ホームステイを希望する外国人を受け入れるホストファミリーとして登録していただきます。受け入れは随時行っています。
- ☆MMF(My Matsuyama Family)  
松山在住の留学生にとっての「第2の故郷=松山の家族」をつくっていただくための制度です。登録者と留学生をMICでマッチングした後は、自由に交流できます。
- ☆外国人オasstakeマン  
困っている外国人の力になりたい、という方にご登録いただき、ご近所感覚で外国人のサポーターとして活躍していただきます。



### ②イベントを通して国際交流を体験してみよう!

- ☆地球人まつり(1月)  
市民と外国人市民の皆さんとの交流を深めてもらおうと、毎年1回開催しています。世界各国の遊びや文化、料理などを体験できます。
- ☆国際交流サロン(随時)  
市民と外国人市民とが楽しみながら交流できるイベントを随時開催しています。
- ☆地域での交流活動のサポート(随時)  
地域のイベントに市民と外国人市民がいっしょに参加し、交流します。



### ③外国人市民の皆さんへ

- ☆窓口相談サービス  
外国人市民の皆さんからの相談に応じたり、生活ハンドブックを差し上げるなどの生活情報の提供を行っています。
- ☆外国語としての日本語教室  
外国人市民を対象に無料で開講しています。託児サービス(無料)もあります。
- ☆自転車の貸し出し  
短期滞在の外国の方に対して、無料で自転車の貸し出しを行っています。市内観光をする際などにご利用ください。

詳しいことが知りたい人はMICへ!



国際交流情報が満載のMICメールニュースを週に1回配信しています。

配信希望の方は mail@mic.ehime.jp までメールを送ってください。

お問い合わせ

## まつやま国際交流センター(MIC)

〒790-0003 松山市三番町6丁目4-20 コムズ1階

TEL:089-943-2025 FAX:089-931-2041

E-mail:mail@mic.ehime.jp http://www.mic.ehime.jp/MIC/top.html

MIC Facebookはこちら

